

令和8年度第1回霞ヶ浦自然観察会実施結果

日 時：令和8年5月23日（土） 8時30分～13時

テーマ：南限のハマナスと海辺の植物を観察しよう

場 所：鹿嶋市大小志崎海岸

案 内：栗栖宣博（茨城県霞ヶ浦環境科学センター）

内 容：霞ヶ浦の水は利根川を経て太平洋に注ぎます。その海岸である鹿島灘沿岸は、砂浜海岸が100kmにわたって広がり、いろいろな海浜植物が生育しています。そして、美しい花を咲かせる北方系の植物ハマナスの南限地が鹿嶋市大小志崎にあり、国の天然記念物に指定されています。この観察会では、南限のハマナスと海辺の植物を観察し、霞ヶ浦湖岸の植物、内陸の植物などと形態や生態の違いを発見します。

参加者：24名（大人18名、小学生3名）

担当職員：6名

パートナー：8名

結 果：8時25分に霞ヶ浦環境科学センターを出発し、9時40分に鹿嶋市大小志崎海岸に到着。まず、砂浜の植物を観察し、次にハマナス群落を観察しました。前日までの風雨で砂浜はかなり荒れていましたが、ハマヒルガオやハマボウフウの花が見られました。また、その根や地下茎が砂の中に長くのびる様子も観察し、厳しい環境で生育する植物の工夫も確認することができました。ハマナス群落では、シャリンバやトベラの花、そして、今回の大きな目的であるハマナスの淡いピンクの美しい花を見ることができました。11時40分に観察を終え、霞ヶ浦環境科学センターに13時に戻り解散しました。

当日は、強い風の中、そして前日までの雨で砂浜がかなり荒れた状況での観察でしたが、そのような厳しい環境に負けない植物のたくましさを参加者には実感していただけたのではないのでしょうか。

《大小志崎海岸で観察した主な砂浜の植物》

海岸の砂浜は、塩水、乾燥、強風、常に動く不安定な砂など、植物にとってはとても厳しい環境です。このような場所でも。葉が肉厚になったり、地下部には縦横に長い根茎をもっていたり、特殊な形をして適応した海浜植物が生育しています。今回、観察できた主な植物は次の通りです。

<砂浜で見られた植物と主な観察ポイント>

- オニシバ（イネ科）：雄性期と雌性期の花
- オニハマダイコン（アブラナ科）：花と実
- コウボウシバ（カヤツリグサ科）：雄小穂と雌小穂
- コウボウムギ（カヤツリグサ科）：雄株の雄小穂と雌株の雌小穂
- コマツヨイグサ（アカバナ科）：花
- スナビキソウ（ムラサキ科）：花
- チガヤ（イネ科）：実
- ツルナ（ハマミズナ科）：花
- テンキグサ（イネ科）：花
- ハマエンドウ（マメ科）：実
- ハマニガナ（キク科）：花と地下茎
- ハマヒルガオ（ヒルガオ科）：花と地下茎
- ハマボウフウ（セリ科）：花と根

<やや内陸のハマナス群落周辺の植物>

- エビヅル（ブドウ科）：つぼみ、葉の裏の毛
- オオバイボタ（モクセイ科）：花
- シャリンバイ（バラ科）：花
- スカシユリ（ユリ科）：つぼみ
- テリハノイバラ（バラ科）：花

- トベラ（トベラ科）：花
- ナワシロイチゴ（バラ科）：花、実
- ノブドウ（ブドウ科）：つぼみ、葉の裏
- ハマアオスゲ（カヤツリグサ科）：雄小穂と雌小穂
- ハマナス（バラ科）：花、実、枝のとげ
- マサキ（ニシキギ科）：つぼみ
- マルバアキグミ（グミ科）：花
- メダケ（イネ科）：葉
- ワセオバナ（イネ科）：葉

令和8年度第1回霞ヶ浦自然観察会



強風のため、バスのかげで観察会スタート



代表的な砂浜の植物5種を観察



コウボウシバ(手前)とハマエンドウ(奥)



崖の断面に見えたハマボウフウの根を観察



ハマニガナの切り口から出る白く苦い汁を観察



子どもたちが掘ったハマヒルガオの地下茎を観察



ハマナス群落の植物を観察



天然記念物ハマナス自生地のハマナスの花